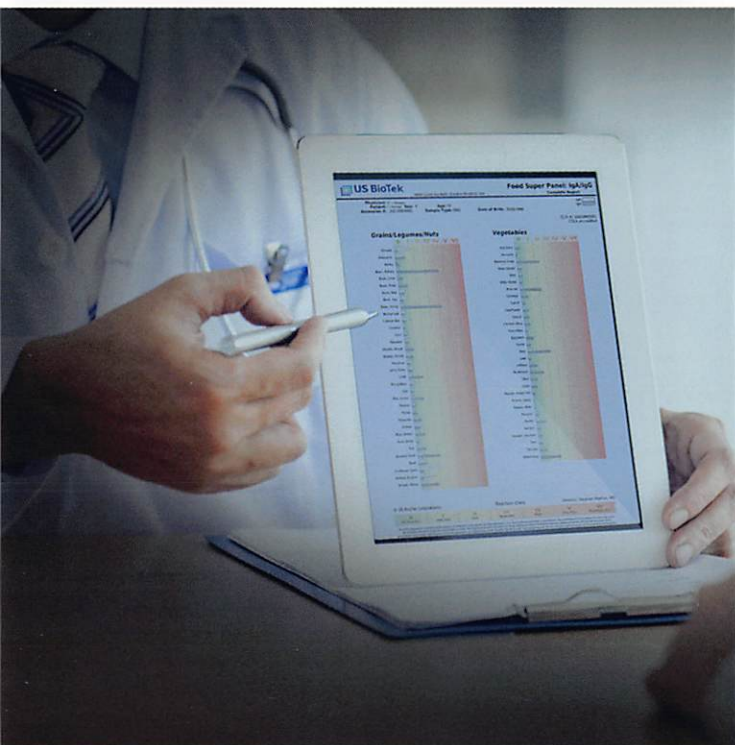


あなたは食べ物で病気になっていませんか？



遅延型フードアレルギーで起こりうる症状

消化器系	過敏性腸症候群、腹部膨満感、便秘、下痢、嘔気など
神経系	不安神経症、うつ、躁うつ、集中力不足など
筋骨格系	関節炎、関節痛、筋肉痛、だるさなど
泌尿生殖器系	夜尿症、頻尿、尿意切迫、膣のかゆみ、おりものの異常、月経前症候群など
呼吸器系	ぜん息、鼻水、鼻閉、慢性副鼻腔炎、長引く咳、咽頭痛など
循環器系	不整脈、胸痛、高血圧など
外皮系	アトピー性皮膚炎、にきび、フケ、湿疹、多汗など
その他	慢性疲労、頭痛、むくみ、口内炎、ドライアイ、涙目など



US BioTek社は世界クラスの科学者や技術者のチームおよび最先端の機器を備え、酵素免疫測定法(ELISA)、化学発光免疫測定法(CLA)、液体クロマトグラフトリプル四重極質量分析(LC-MS / MS)などを利用した臨床検査を30年以上実施してきました。

US BioTek社は米国病理学会(CAP)の認定を取得しています。CAPは病理医、検査技師で構成される学会であり、世界最大規模の国際的な精度管理プログラムを実施しています。審査の内容は、試験方法、検体処理、試薬、検査機器、検査員要件、検査報告など多岐に渡ります。査察チームは臨床検査の専門家で構成され、その厳格な審査によって最高の品質管理基準が満たされていることが認められるのです。

本パンフレットの情報は米国食品医薬品局(FDA)の評価を受けたものではありません。本検査は診断や治療に代わるもの、あるいは疾病の予防を目的としたものではありません。

食物に対する特異的IgE抗体の定量化は1型過敏アレルギー反応の評価のための診断法としてFDAに認定されています。FDAは個別の食物抗原に特異的なIgG抗体の評価をアレルギーの診断上の指標として認知していません。特異的IgA、IgG、IgG4の定量化は、免疫複合体の形成を伴うIII型過敏性反応を評価、調査することを目的で研究の場で用いられています。



info@fhjapan.co.jp



ミニパネル 48項目

ジャパニーズフードパネル 120項目

ジャパニーズフードパネル 144項目

ジャパニーズフードパネル 240項目

96スタンダードフードパネル 109項目

フードアレルギーとは？

フードアレルギーとは、特定の食品を摂取した際に、身体が過剰な免疫反応を起こすことで、様々な症状を引き起こすものです。このフードアレルギーは即時型と遅延型に大別することができます。一般的によく知られているフードアレルギーは、即時型フードアレルギーと呼ばれ、原因となる食品を摂取したあと短時間で症状が出ますが、遅延型フードアレルギーは食事摂取後すぐには症状がでないことが特徴です。また、遅延型フードアレルギーはその特徴故に、食事と症状の因果関係がはっきりせず、見過ごされてしまうことも多いのです。今まで原因のわからなかった慢性的な心身の不調の原因が遅延型アレルギーであることがあります。アレルギーを起こすきっかけになる食品をトリガーフードと呼び、これを特定し除去することで遅延型フードアレルギーを回避することができるのです。

即時型フードアレルギー

原因となる食品を摂取してから2時間以内にアレルギー反応が出るため即時型と呼ばれます。卵や乳製品、大豆、魚などを摂取後に、蕁麻疹などの皮膚症状、呼吸困難などの呼吸器症状、下痢や嘔吐などの消化器症状が現れることが多いとされています。

遅延型フードアレルギー

食後数時間～数日後にアレルギー反応が現れ、その症状は多岐にわたります。食事と症状との因果関係がわかりづらく、気づかず頻繁に摂取している食品がトリガーフードとなり発症することもあります。

なぜフードアレルギーが起きるのでしょうか？

特定の食品に含まれるタンパク質が消化管の分解能力を超えた時にフードアレルギーは症状として現れます。分子量の大きい食品に含まれるタンパク質は、段階的な消化が必要で、小さな分子に分解されてはじめて小腸に吸収されます。特定の食品が十分に消化されないと、腸壁のフィルターが目詰まりし、不快な症状を起こすといわれています。

ローテーションダイエットとは？

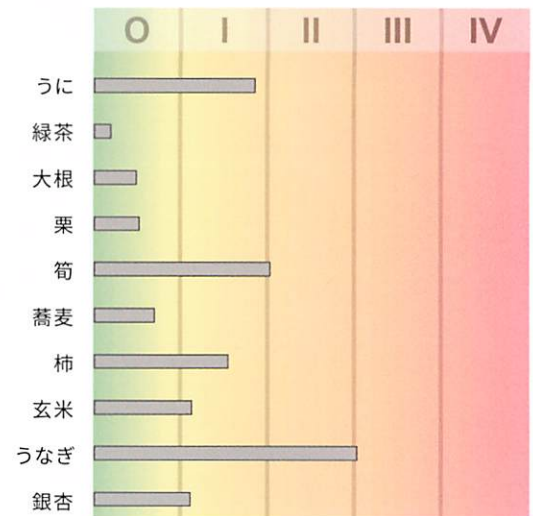
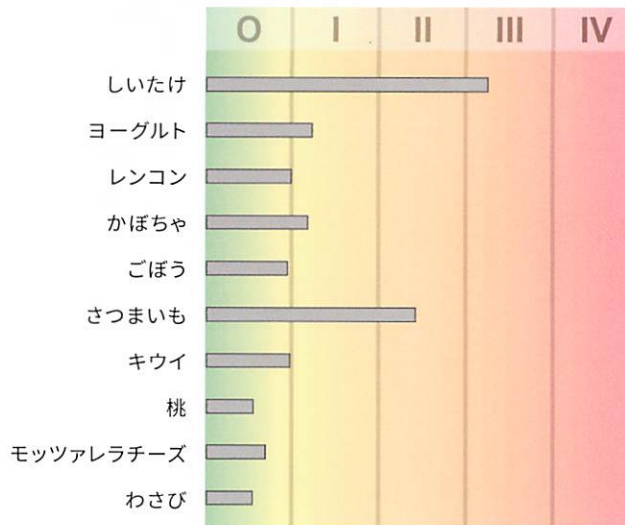
遅延型フードアレルギーのトリガーフードがわかれば、それを回避することができます。ローテーションダイエットは、遅延型フードアレルギー検査で高い反応を示した食品を連日過剰に摂取しないように工夫する食事療法を指します。

他検査機関との違い

- US BioTek社は、血液検体に含まれる抗体価を絶対測定することができる唯一のフードアレルギー検査機関です。すべての検体を2度検査し、同様の結果が得られるか確認を行っています。また400以上の検体サンプルを用いて基準を設定しており、今日において最も信頼性の高いフードアレルギー検査であると言えます。

- US BioTek社は米国病理学会(CAP)の認定を受けています。これは臨床検査において国際的に認められた最高レベルの認定です。

日本語の検査レポートと検査結果に基づく個別のローテーションダイエットガイドを提供します。



※上記グラフはイメージです
※項目は予告なく変更されることがあります

反応クラス

	O	I	II	III	IV
IgA (mg/L)	<1.95	≥1.95-3.90	>3.90-15.60	>15.60-29.90	>29.90
IgG (mg/L)	<2.50	≥2.50-5.00	>5.00-20.30	>20.30-47.10	>47.10
IgG4 (mg/L)	<1.20 未検出	≥1.20-4.70 低い	>4.70-18.80 中程度	>18.80-37.50 高い	>37.50 非常に高い